

silmare

水素ガス吸入器 silmare Pulse120

取扱説明書

この度は当社製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

- 本製品および付属品は医療機器ではありません。
- この取扱説明書（保証書付）をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
- ご使用前に「安全上の注意」を必ずお読みください。
- 正しく使用されなかった場合の本製品の故障および事故について、当社は責任を負いかねます。
- この取扱説明書（保証書付）は、いつでも見ることができる所に保管してください。
- 保証書は「購入日、販売店名」などをご記入いただき、必ずお買い上げ日の入ったレシートや納品書などの購入証明書類と一緒に大切に保管してください。

製品の品質確保のため、本製品は出荷前に動作テストを実施しております。
そのため、初めて開封された際に、水タンクまたは水位観察窓に肉眼で確認できる水滴が残っている場合がございますが、これは正常な状態です。

目次 CONTENTS

1 はじめに	安全上の注意	P.3
	使用上の注意	P.5
	各部名称	P.6
	天面拡大図	P.7
	付属品	P.8
	気液分離コネクタについて	P.9
	電源コードの差し込みについて	P.9
	使用前の準備	P.10
<hr/>		
2 使用方法	水素ガスを吸入する	P.12
	水素水を生成する	P.14
	精製水を補給する	P.16
	精製水を排水する	P.17
<hr/>		
3 各種機能	運転モードの種類	P.18
	運転時間の種類	P.18
	自動オン/オフ機能	P.18
	運転モード、時間を選択する	P.19
	スリープモード（消灯機能）	P.20
	ランプとライトの状態	P.20
<hr/>		
4 お手入れ	お手入れ方法	P.21
	精製水の交換	P.22
	長期間使わないとき	P.22
<hr/>		
5 必要なとき	エラー表示と対応方法	P.23
<hr/>		
6 故障かな?と思ったら		P.24
<hr/>		
7 仕様		P.30
<hr/>		

1 はじめに

安全上の注意（必ずお守りください）

人への危害、財産への損害を防ぐため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■ 誤った使いかたで生じる内容を、次のように区分して説明しています。

 警告	「死亡または重傷を負うおそれがある」内容
 注意	「軽傷を負う、または財産に損害を受けるおそれがある」内容

■ お守りいただく内容の種類を、次の図記号で説明しています。

	してはいけない内容
	実行しなければならない内容

警告

■ ご使用時は

 禁止	●火気を使用しない。 不慮の事故や火災の原因になります。	 禁止	●改造はしない。また修理技術者以外の人は絶対に分解や修理をしない。 火災・感電・けがの原因になります。
 禁止	●次のような場所では使用しない。または設置しない。 ・屋外・直射日光が当たる場所・火気がある場所・気温が40℃以上になる場所 ・気温が5℃以下になる場所・湿度の高い場所・埃や油滴の発生する場所 ・水のかかる場所・本体が傾いたり、安定しない場所 本製品の故障等のおそれがあります。		
	●次のような方は単独で使用しない。 子供・自分で器具の操作ができない方		
	●吸排気口をふさがない。 風通しが悪くなり、発熱・発火の原因になります。		
	●吸排気口に指や異物を入れない。 けがや感電、故障の原因となります。		
	●密閉された空間で使用しない。 発熱・発火の原因になります。		
	●発生した水素ガスを容器等に溜めない。 不慮の事故につながるおそれがあります。		
	●本製品を水につけたり、水をかけたりしない。 感電、漏電、火災の原因になります。		
 必ず守る	●以下の方は医師と相談の上、本製品を使用する。 医師の治療を受けている方・服薬中の方・身体に何らかの異常を感じる方・妊娠中の方		

■ 電源プラグや電源コードは



禁止

- 傷つける・加工する・無理に曲げる・引っ張る・ねじる・束ねる・加熱する・重いものを載せる・はさみ込ませるなどしない。
電源コードが破損し、感電、火災の原因になります。
- ぬれた手で抜き差ししない。
感電の原因になります。
- コンセントや配線器具の定格を超えた使用はしない。
タコ足配線などで定格を超えると、発熱による火災の原因になります。
- 電源プラグや電源コードが傷んだり、コンセントの差し込みがゆるいときは使用しない。
感電、火災、ショートの原因になります。
- 電源プラグの抜き差しによる運転や、停止をしない。
感電、火災の原因になります。



必ず守る

- 電源プラグに付いたホコリ、ゴミは取り除く。
電源プラグにホコリなどが付いた状態で使用すると感電、火災の原因になります。
- 電源プラグはコンセントの奥まで確実に差し込む。
差し込みが不十分な場合、感電、火災の原因になります。
- 電源コードは、必ず電源プラグをもって抜く。
感電、火災、ショートの原因となります。

■ 異常時(こげくさいニオイ)は



必ず守る

- 運転を停止して、電源プラグを抜く。
感電、火災の原因となります。

■ お手入れ時は



必ず守る

- 運転を停止して、電源プラグを抜く。
感電の原因となります。



注意

■ ご使用時は



禁止

- 本製品を運転中に水タンクのキャップを開けない。
水タンク内の水圧により、漏水、動作異常、故障の原因となります。
- 本製品を倒した状態で運転、移動、保管をしない。
器具破損、漏水、故障の原因となります。
- 吸排気口にホコリやゴミが付いたまま運転しない。
故障等の原因になります。
- ベンジン、シンナーなどで拭いたり、殺虫剤をかけたりしない。
ひび割れ、感電、火災の原因になります。



必ず守る

- 移動するときは必ず運転を停止し、電源プラグを抜き、水タンク内の水を排水する。
感電、漏電、火災、漏水、故障の原因となります。

使用上の注意 ご使用の際は、以下の項目を守り正しくお使いください。

- 必ず精製水(日本薬局方)を使用してください。
精製水以外の水を使用すると故障の原因になります。
- 本製品を運転中は必ず酸素口のキャップを外して使用してください。
酸素口のキャップを外さないと圧力が上昇するため、漏水、動作異常、故障の原因となります。
- 水タンク内の水位上限を必ず守って使用してください。
漏水、動作異常、故障の原因となります。
- 移動するときは必ず運転を停止し、電源プラグを抜き、水タンク内の水を排水してください。
感電、漏電、火災、漏水、故障の原因となります。
- カニューラに結露水が溜まった場合、新しいものに交換するか、カニューラ内の水を取り除いて使用してください。
パルスシステムの精度が落ち、水素ガスの放出のタイミングや「パルスランプ」点灯のタイミングに影響します。
また、自動オン/オフ機能が正常に機能しない可能性があります。
- 水タンク内の精製水は定期的に入れ替えてください。
精製水交換サイン(TDSランプ)が出た際、もしくは1ヵ月に1度どちらか早いタイミングでの交換をお勧めします。交換する際は、水タンクの中に入っている精製水を排水し、新しい精製水を入れてください。
【精製水交換サイン(TDSランプ)が出る目安】
水位観察窓のMAXより少し下まで日本薬局方の精製水を入れた状態で使用を開始した場合、累計で約25時間～30時間程度の使用ごとにTDSランプが点灯します。初めてのご使用や長期間空いてご使用される際は、上記よりも早いタイミングでTDSランプが点灯する場合がありますが、2週間程度のご使用で電解セルが馴染み、上記と同程度のサイクルで安定してきます。
使用状況や使用環境によって多少の前後はありますが、電解セルを長持ちさせ、より清潔な精製水で水素ガスを発生させるためのお知らせとなりますので、精製水交換サイン(TDSランプ)が出た際は、精製水の交換をお願いいたします。
※低水位ランプが点灯したときなどや通常のご使用時に、精製水を継ぎ足すとTDSランプの点灯のタイミングが早くなりますので、精製水の継ぎ足しはせず、排水口から全て排水し、新しい精製水と交換することをお勧めします。
- 健康上の問題がある場合は、使用前に医師に相談してください。
使用中に違和感を感じた場合は、直ちに使用を中止し、症状によっては医師の判断を仰いでください。

パルスモードについて

パルスモード使用中は呼吸を感知して、息を吸うときに水素ガスを放出しますが、使用中に「会話」「飲食」「移動」「口呼吸」などを行うとパルスシステムの精度が落ち、水素ガスの放出のタイミングや「パルスランプ」点灯のタイミングに影響します。
また、水素ガスの吸入や放出のタイミングに集中しすぎると呼吸が乱れ息苦しく感じる場合もあります。
リラックスした姿勢で落ち着いて、鼻から息を吸い口から吐き出すようにすると効果的に水素ガス吸入が行えます。

初めて本製品を使用するとき／長期間使用していないとき

電気を通す前(電源プラグをコンセントに差し込む前)に、精製水を水位観察窓のMINまでゆっくり入れ、本体底面にある排水口から5秒程度排水してください。その後、精製水を水位観察窓の7割～MAXより少し下までゆっくり入れ、水平な場所に1時間程度置いてから使用してください。

※排水は本製品のチューブ内に溜まった空気を逃がすために行いますので、水タンク内の水を全て排水する必要はありません。
本体底面にある排水口から5秒程度排水してください。

※精製水の補給方法と排水方法の詳細は、P.16「精製水を補給する」P.17「精製水を排水する」をご確認ください。

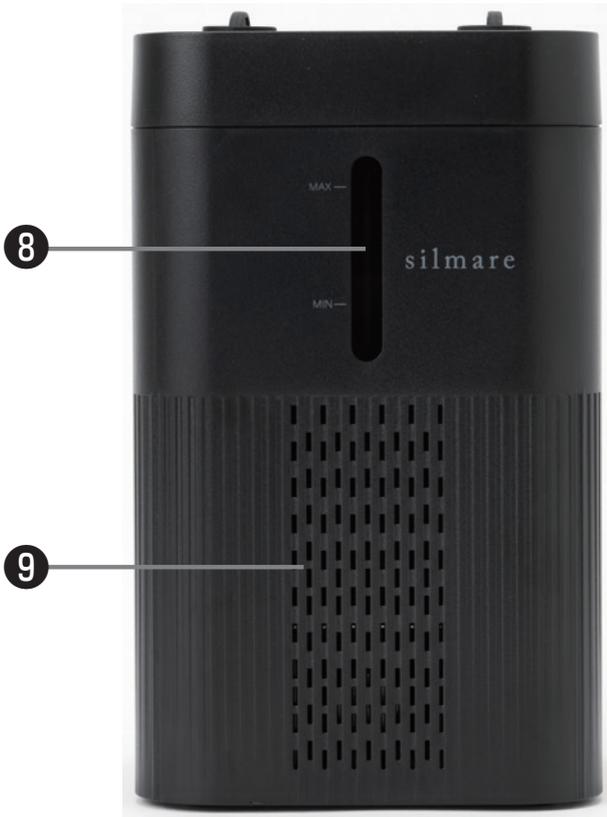
各部名称

本体

- ① パワーボタン (電源 / タイマー)
- ② モードボタン (モード選択)
- ③ 酸素口キャップ / 酸素口
- ④ 水素口キャップ / 水素口
- ⑤ 水タンクキャップ / 給水口
- ⑥ モード / タイマー表示ランプ
- ⑦ エラーランプ表示部分
- ⑧ 水位観察窓
- ⑨ 吸排気口
- ⑩ 排水口キャップ / 排水口
- ⑪ 電源コネクタ
- ⑫ キャップホルダー



正面



背面



水素注入スティック

- ① チューブ接続部
- ② 水素注入ノズル



天面拡大図



エラーランプについて

通常時は、エラーランプは表示されていません。

エラーがあった際に表示されます。

詳しくは、P.23「エラー表示と対応方法」をご確認ください。

表示例



付属品

- ① カニューーラ
- ② 気液分離コネクタと接続チューブ1
- ③ 水素注入スティックと接続チューブ2
- ④ 電源コード
- ⑤ 取扱説明書（保証書付）

※本製品のご使用には、精製水（日本薬局方）が必要です。

精製水は付属しておりませんので、薬局やドラッグストアなどでご購入の上ご使用ください。



気液分離コネクタについて

気液分離コネクタは、結露や水素ガスと一緒に出てくる水を受ける水受けです。

結露はご使用の環境(温度、湿度)に依存します。

気液分離コネクタに水が溜まると、その水がカニューラを伝って鼻に入る可能性がありますので溜まったタイミングで、コネクタの上部ふたを時計回りに回して上へ引き、外してから中の水を捨ててください。



必ず守る

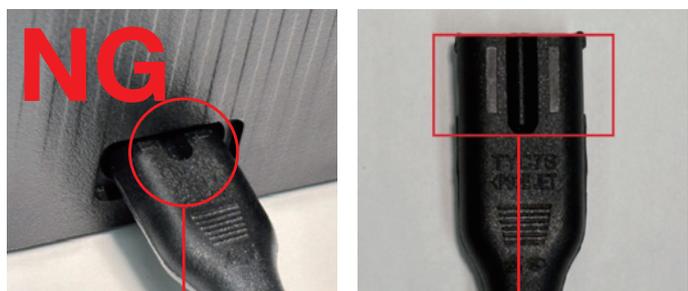
- 気液分離コネクタにはパッキン(ゴムの輪)がついています。パッキンがついていないと密封性が保たれなくなり、正常に水素ガスを吸入できない可能性があります。外れてしまった場合は、必ず取り付け直してください。

※パッキンの色は、半透明、黒など生産ロットにより異なりますが、品質、機能に違いはありません。

電源コードの差し込みについて

電源コードは、差し込みがきつめの仕様となっております。

コードを水平に持ち、グッと押し込むような形で奥まで差し込んでください。もしくは、他の方法(ゆっくり差し込むなど)でも、OKの写真のように電源コードの溝が見えなくなれば、しっかりと接続されています。



この溝が見えなくなるまで差し込む。



必ず守る

- 電源コードがしっかりと接続されていない場合、電源・モードボタンが反応しない、運転が途中で止まる、コードが外れるなど、ご使用に不都合が生じる可能性があります。最悪の場合、故障につながる可能性もあるため、ご使用の際は電源コードをしっかりと接続してください。

使用前の準備

ご使用前に必ずP.5「使用上の注意」を読んで正しくお使いください。

- ① 酸素口キャップ、水素口キャップを外し、
キャップホルダーに取り付けます。



- ② 水タンクキャップを反時計回りに回して外し、
精製水を水位観察窓のMINまでゆっくり入れ、
本体底面にある排水口から5秒程度
排水してください。



- ③ 精製水を水位観察窓の7割～MAXの少し下まで
ゆっくり入れ、酸素口キャップ、水素口キャップ、
水タンクキャップを取り付け、
水平な場所に1時間程度置きます。



- ④ 電源コードを本体の電源コネクタに
差し込みます。



⑤電源プラグをコンセントに差し込みます。

本体は待機状態になります。

※待機状態中は、画像のように、モード表示ランプ、
タイマー表示ランプの合計2か所が点灯します。



⑥酸素口キャップ、水素口キャップを外し、
キャップホルダーに取り付けます。



※排水は本製品のチューブ内に溜まった空気を逃がすために行いますので、
水タンク内の水を全て排水する必要はありません。本体底面にある排水口から5秒程度
排水してください。

※精製水の補給方法と排水方法の詳細は、

P.16「精製水を補給する」 P.17「精製水を排水する」をご確認ください。



必ず守る

①～③は初めて使用する場合、長期間使用していなかった場合に行ってください。
(毎回行う必要はありません。)

また、①～③は必ず、電気を通す前(電源プラグをコンセントに差し込む前)に行ってください。

水素ガスを吸入する

①接続チューブ1を気液分離コネクタの内部の管が長いほうの接続口に差し込みます。



②接続チューブ1の空いているほうを本体の水素口に差し込みます。



③カニューラを気液分離コネクタの空いている接続口(内部の管が短いほう)に差し込みます。



④カニューラを鼻に装着します。



- ⑤「パワーボタン」を押すと
水素ガスの発生がはじまります。



- ⑥運転モード、時間を選択して
水素ガス吸入をします。
途中で停止したいときは「パワーボタン」を
長押ししてください。待機状態になります。



- 使用する際は、必ず酸素口キャップ、水素口キャップを外し、キャップホルダーに取り付けてください。
- 使用する際は、必ずMIN以上まで精製水を入れてください。
- 気液分離コネクタに水が溜まった場合は、ふたを時計回りに回して外し、中の水を捨ててください。

水素水を生成する

本製品は、付属の水素注入スティックを使用して、水やそれ以外の様々な飲料に水素ガスを注入することができます。

※固形物が入った液体、粘度が高い液体、油分が入った液体には使用しないでください。

※使用後はすぐに水素注入スティックを洗浄し、清潔に保ってください。

詳しい洗浄の方法は、P.21「お手入れ方法/水素注入スティック」をご確認ください。

※色の濃い液体に使用すると色が取れなくなる可能性があります。

- ①水素注入スティックのチューブ接続部に接続チューブ2を差し込みます。
(水素注入スティックを使用する際は、気液分離コネクタは使用しないでください。)



- ②接続チューブ2の空いているほうを本体の水素口に差し込みます。



- ③水素注入スティックの水素注入ノズルを液体の入った容器の中に入れます。



- ④「パワーボタン」を押して運転を開始し、
ノーマルモードを選択します。
時間は「1時間」「2時間」の
どちらで使用してもかまいません。



- ⑤お好みの時間、水素ガスを注入してください。
水素ガスの注入が終わりましたら、
すぐに水素注入スティックを
液体の入った容器から取り出してください。



目安 水温20度のミネラルウォーターを使用した場合

200ml：約1分30秒間で1.0ppm程度の水素水が出来上がります。

300ml：約2分間で1.0ppm程度の水素水が出来上がります。

どちらも30分程度、出来たと同じくらいの濃度を保ちます。

※使用する液体の水温、水質、容量と水素注入時間によって濃度や溶存時間は異なります。



必ず守る

- 水素注入スティックを使用する際は、必ずノーマルモードを選択してください。
パルスモードで水素注入スティックを使用すると故障の原因になります。
- 水素ガスの注入が終わりましたら、すぐに水素注入スティックを液体の入った容器から取り出してください。注入終了後に水素注入スティックを液体に入れたままにすると、まれに容器内の液体が逆流して本体に入り、故障の原因となる可能性があります。
- 使用する際は、必ず酸素口キャップ、水素口キャップを外し、キャップホルダーに取り付けてください。

精製水を補給する

電気が通っていない状態(電源プラグがコンセントに差し込まれていない状態)で、水タンクキャップを反時計回りに回して外し、給水口から精製水(日本薬局方)をゆっくり注ぎます。水位の下限は水位観察窓のMIN、上限はMAXです。



※精製水をMAXギリギリまで入れると、水素ガスと同時に精製水が水素口から多めに出てくる可能性がありますので、MAXの少し下まで入れていただくことをお勧めします。

水タンクの水位が見えにくい場合

本体を蛍光灯の下や明るい場所に置き、水タンクキャップを外し、水タンク内に光を入れていただくと水位観察窓より水位をご確認いただけます。もしくは、ライトで直接水タンク内に光をかざすと確認しやすくなります。

また、排水口より排水していただいた状態の場合、おおよそ380ml~400mlで水位観察窓のMAXとなります。

精製水を排水する

①電源コードを本体から外します。



②水タンクキャップ、酸素口キャップ、
水素口キャップを外します。
酸素口/水素口キャップはキャップホルダーに
取り付けてください。



③底面にある排水口キャップを外し、
排水口から排水します。



排水する際のコツ

製品の特性上、水タンク内の全ての水を排水することはできませんが、途中まで排水した段階で、本体を円を描くように回しながら排水し、最後に前後左右に数回ずつ傾けながら排水すると、より多く排水でき残水が少なくなり、水タンク内の底面に溜まった不純物が残りにくくなります。



必ず守る

- 給水口から排水はせず、必ず排水口から排水してください。
- 排水口キャップを外すとすぐに水が出てきますので、排水が可能な場所で注意して外してください。
- 水タンクキャップ、酸素口キャップ、水素口キャップを外さず排水をすると、圧力で水の出が少なくなる場合があります。また、キャップを外さずに排水すると、酸素口、水素口に水が溜まりますので、排水するときは、必ずキャップを外した状態で行ってください。

運転モードの種類

パルスモード

吸気を感じたときに緑の「パルスランプ」が点灯します。

カニューラから伝わる呼吸をセンサーで感知し、息を吐く間は水素ガスを放出せず内部タンクに溜め、息を吸うタイミングで溜まった水素ガスとその瞬間に発生した水素ガスを一気に放出させるモードです。呼吸時の息を吸う、吐く時間の割合は平均で1:2と言われており、パルスモードでは息を吐いている間に発生した水素ガスも無駄にすることなく全て吸入することができます。吸入可能な水素ガス量はノーマルモードの約3倍に相当します。

ノーマルモード

息を吐く間、吸う間も変わらず連続して水素ガスが放出されるモードです。

運転時間の種類

オート

時間の制限なく連続して使用できます。

※パルスモード時のみ選択可能です。

※自動オン/オフ機能が有効になります。

1時間

1時間連続して使用できます。

2時間

2時間連続して使用できます。

自動オン/オフ機能

パルスモードで時間設定が「オート」の時のみ有効になる機能です。

- 待機状態でカニューラを装着し呼吸を感知すると自動で運転が始まります。
- 運転中に呼吸を一定時間(30秒～1分間)感知しない場合、自動で運転が止まり待機状態になります。

再び呼吸を感知すると自動で運転を再開します。

※時間設定が「1時間」「2時間」の時は手動でオン/オフする必要があります。

■ 運転モード、時間を選択する

待機状態で「パワーボタン」を押すと、前回使用していたモード、時間からスタートします。初めて使用する場合や電源コードを差し直した場合は、「パルスモード」「オート」からスタートします。

※待機状態中は、画像のように、モード表示ランプ、タイマー表示ランプの合計2か所が点灯します。



■ 運転モードを選択する

「パワーボタン」を押して運転を開始したあと、「モードボタン」を押すと「パルス」「ノーマル」と切替/選択ができます。運転の途中でも切替が可能です。

■ 運転時間を選択する

「パワーボタン」を押して運転を開始したあと、再度「パワーボタン」を押すと、運転時間(タイマー)の切替/選択ができます。運転の途中でも切替が可能です。

パルスモード使用時 : オート、1時間、2時間

ノーマルモード使用時 : 1時間、2時間

スリープモード（消灯機能）

就寝時などランプなどの明かりが気になるときに消灯できる機能です。

水位観察窓のライトと全てのランプが消えます。ライトやランプが消えるだけで、水素ガスの発生は続き、通常通り吸入できます。

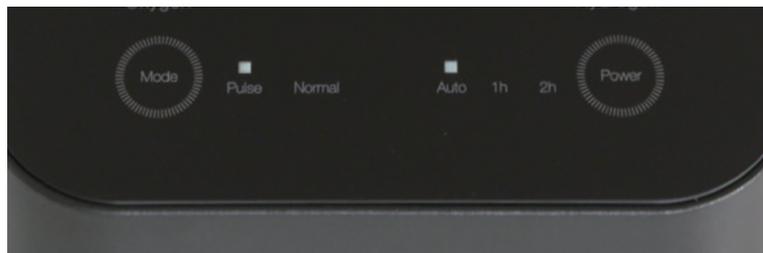
スリープモード開始 : 運転中に「モードボタン」を長押しします。

スリープモード解除 : スリープモード中に「モードボタン」を1度押します。

※誤作動を防ぐため、スリープモード開始から5秒間はスリープモードを解除できませんので、解除したい場合は5秒間待ってから解除してください。

ランプとライトの状態

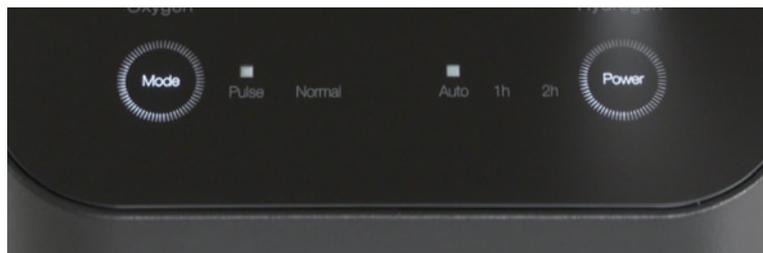
待機状態



前回使用していた「モード」と「時間」のランプが点灯

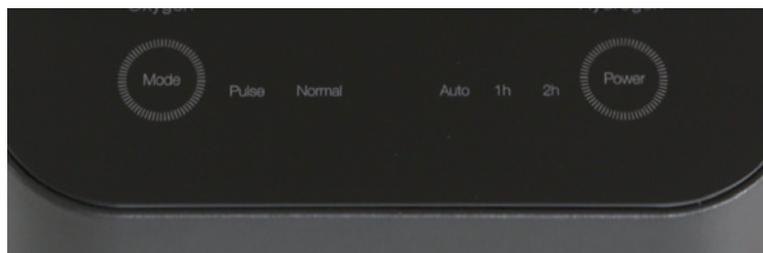
※初めて使用する場合や電源コードを差し直した場合は、「パルス」「オート」が点灯します。

運転中



水位観察窓のライト、「モードボタン」「選択したモード」「パワーボタン」「選択した時間」の4つのランプが点灯

スリープモード



水位観察窓のライトと全てのランプが消灯

お手入れ方法

本体

本体を除菌シートなどで拭いたあと、メガネ拭きなどに使われるマイクロファイバーで拭きあげるときれいになります。

水素注入スティック

通常時

丸ごと水洗いが可能です。ただし、洗剤、消毒液、漂白液などを使用すると水素注入ノズルの穴から水素注入スティック内部に侵入する可能性があるため、洗剤などは使用せず、消毒・殺菌には、歯ブラシなどの柔らかいブラシで磨いてから煮沸消毒をおすすめします。

※金属製のたわしを使用すると傷や破損の原因となるため、使用しないでください。

クエン酸洗浄(2週間～1ヶ月に1回程度の洗浄をお勧めします。)

ぬるま湯にクエン酸を加え、濃度2.5%～5%程度のクエン酸溶液を作り、その中に水素注入スティックが丸ごと浸かるように入れ、2時間程度置きます。その後歯ブラシなどで磨きながら流水で水洗いしてください。

濃度約2.5%～5%のクエン酸溶液を作る場合

約2.5%：ぬるま湯200ml、クエン酸小さじ1杯(5g)

約5%　：ぬるま湯200ml、クエン酸小さじ2杯(10g)

付属品

カニューラ、接続チューブ1・2、気液分離コネクタ、水素注入スティックは消耗品です。必要に応じて交換してください。

使用頻度や使用環境にもよりますが、カニューラは少なくとも1ヵ月程度ごとに交換することをお勧めします。また、使用後は除菌シートなどで拭き、清潔な状態で保管してください。

精製水の交換

水タンク内の精製水は定期的に入れ替えてください。

精製水交換サイン(TDSランプ)が出た際、もしくは1ヵ月に1度どちらか早いタイミングでの交換をお勧めします。

交換する際は、水タンクの中に入っている精製水を排水し、新しい精製水を入れてください。

※精製水の補給方法と排水方法の詳細は、

P.16「精製水を補給する」P.17「精製水を排水する」をご確認ください。

【精製水交換サイン(TDSランプ)が出る目安】

水位観察窓のMAXより少し下まで日本薬局方の精製水を入れた状態で使用を開始した場合、累計で約25時間～30時間程度の使用ごとにTDSランプが点灯します。初めてのご使用や長期間空いてご使用される際は、上記よりも早いタイミングでTDSランプが点灯する場合がありますが、2週間程度のご使用で電解セルが馴染み、上記と同程度のサイクルで安定してきます。

使用状況や使用環境によって多少の前後はありますが、電解セルを長持ちさせ、より清潔な精製水で水素ガスを発生させるためのお知らせとなりますので、精製水交換サイン(TDSランプ)が出た際は、精製水の交換をお願いいたします。

※低水位ランプが点灯したときなどや通常のご使用時に、精製水を継ぎ足すとTDSランプの点灯のタイミングが早くなりますので、精製水の継ぎ足しはせず、排水口から全て排水し、新しい精製水と交換することをお勧めします。

長期間使わないとき

- ①カニューラ、接続チューブ1・2、気液分離コネクタ、水素注入スティックなどの付属品を全て取り外してください。取り外した付属品は除菌シートで拭くなどしてから、清潔に保管してください。
 - ②電源コードを抜いてください。
 - ③排水口から排水してください。
 - ④キャップホルダーから酸素口/水素口キャップを外し、それぞれ酸素口、水素口に取り付けてください。
 - ⑤高温になる場所や直射日光を避け、涼しい乾燥した場所で保管してください。
- ※精製水の排水方法は、P.17「精製水を排水する」をご確認ください。

エラー表示と対応方法

警告表示	警告音	内 容	対 応
	ビープ音 3回	低水位:(赤ランプ) 水タンク内の精製水が不足しています。 運転中の場合、運転が停止し待機状態になります。 ※水位観察窓も点滅します。	精製水を交換してください。 ※精製水をMIN以上まで加えると使用できるようになりますが、精製水を継ぎ足すとTDSランプの点灯のタイミングが早くなりますので、精製水の継ぎ足しはせず、排水口から全て排水し、新しい精製水と交換することをお勧めします。
	ビープ音 3回	精製水交換(TDSランプ):(赤ランプ) 精製水が汚れています。 運転中の場合、運転が停止し待機状態になります。	精製水を交換してください。
	ビープ音 3回	電解セルの温度異常: 電解セルの温度が高くなりすぎています。「パワーボタン」と「水位観察窓」が同時に点滅します。この現象は、本体内部のチューブ内に空気が溜まり、電解セルへの水の供給が上手くいかず、電解セルの温度が上昇すると起こります。	本体内部のチューブ内に溜まった空気を逃がすために、本体底面にある排水口から5秒程度排水してください。チューブ内の空気が抜ければ正常に使用できるようになります。上記を試し、もし症状が改善しない場合は、一旦水タンク内の精製水を全て排水し、新しい精製水と入れ替えてください。
	ビープ音 3回	水素ガス詰まり: 水素ガスが正常に放出されていません。「モードボタン」が点滅します。	「水素口が塞がれている」「カニューラが折れたり、変形している」など水素ガスの放出が阻害されている可能性があります。水素ガス放出を阻害する原因を排除してください。原因を排除してから、「パワーボタン」を長押しして待機状態にし、再び「パワーボタン」を押して再起動してください。
何の反応もない		電解セルの寿命: 電解セルの寿命が切れると運転中であっても自動的に運転を停止します。この場合「パワーボタン」を押したり、電源コードを差し直したりしても本体は起動しません。	すぐに使用を中止し、電源コードを抜いて「お客様相談センター」へご連絡ください。

※精製水の交換方法は、P.16「精製水を補給する」P.17「精製水を排水する」をご確認ください。

6 故障かな?と思ったら

1. 水位観察窓から泡が確認できません。
2. 水素注入スティックから泡が出てきません。
3. 操作パネルの赤いランプが光り使用できなくなりました。
4. TDSランプ(精製水交換サイン)が点灯して使用できなくなりました。
5. カニューラや本体の水素口から水があふれてきます。
6. 気液分離コネクタに水が溜まってしまいます。
7. パルスモードが使用できません。
8. パルスモードと呼吸のタイミングが合わないときがあります。
9. パルスモード使用時に音がします。正常ですか？
10. 電源コードの差し込みがゆるい気がします。
11. 使用中に止まってしまうことがあります。
12. 電源ボタンが反応しません。
13. ボタンを押していないのに勝手に運転が始まります。
14. 水タンクの水位が見えにくいです。
15. 本体が異常に熱くなっています。

1. 水位観察窓から泡が確認できません。

本体内部チューブの空気詰まり(エア噛み)の可能性があります。輸送中や移動中の揺れや、精製水の補給時に勢いよく入れたりすると、本体内部チューブ内で稀に空気詰まり(エア噛み)が起こることがあります。以下の手順で空気詰まり(エア噛み)を解消してください。

- ① 精製水をMAXより少し下まで入れる。
(すでに入っている場合は、入れ直す必要はありません。)
- ② 水タンク/酸素口/水素口キャップを外す。
- ③ 本体底面にある排水口キャップを外し、本体を円を描くように回しながら排水する。
- ④ 水タンク内の残水が少なくなったら前後左右に数回ずつ傾けながら排水し、最後に上下に軽く振りながら残りの水を排水する。
- ⑤ 排水口キャップを取りつけた後、精製水をMAXより少し下まで入れる。
- ⑥ 排水口キャップを外し、5秒程度排水する。
- ⑦ パワーボタンを押し本体を起動させ、ノーマルモード/2時間を選択し水素ガスを発生させる。
- ⑧ ①～⑦の手順で泡の発生が確認できない場合は、そのまま2時間本体を運転させる。

※上記を行い、改善しない場合は、「お客様相談センター」へご連絡ください。

2. 水素注入スティックから泡が出てきません。

まず、以下の内容を確認してください。

- ① 水位観察窓から泡が出ているか。
出していない場合は、上記「1. 水位観察窓から泡が確認できません。」をご確認ください。
- ② 本体→接続チューブ2→水素注入スティックの順で接続されているか。
- ③ ノーマルモードが選択されているか。

※詳しくは、P.14,15「水素水を生成する」をご確認ください。

①～③を確認し問題が無い場合は、接続チューブ2から水素注入スティックを外し、接続チューブ2を直接水につけて泡が出るか確認してください。接続チューブ2から泡が確認できる場合は、水素注入スティックの詰まりの可能性がありますのでクエン酸洗浄をお試しください。

詳しくは、P.21「お手入れ方法/水素注入スティック/クエン酸洗浄」をご確認ください。

3. 操作パネルの赤いランプが光り使用できなくなりました。

ランプの表示を確認してください。



水タンク内の精製水が不足しています。精製水を交換してください。



水タンク内の精製水が汚れています。精製水を交換してください。

※低水位の場合、精製水をMIN以上まで加えると使用できるようになりますが、精製水を継ぎ足すとTDSランプの点灯のタイミングが早くなりますので、精製水の継ぎ足しはせず、排水口から全て排水し、新しい精製水と交換することをお勧めします。詳しくは、P.23「エラー表示と対応方法」をご確認ください。

4. TDS ランプ(精製水交換サイン)が点灯して使用できなくなりました。

水位観察窓のMAXより少し下まで日本薬局方の精製水を入れた状態で使用を開始した場合、累計で約25時間～30時間程度の使用ごとにTDSランプが点灯します。初めてのご使用や長期間空いてご使用される際は、上記よりも早いタイミングでTDSランプが点灯する場合がありますが、2週間程度のご使用で電解セルが馴染み、上記と同程度のサイクルで安定してきます。

使用状況や使用環境によって多少の前後はありますが、電解セルを長持ちさせ、より清潔な精製水で水素ガスを発生させるためのお知らせとなりますので、TDSランプ(精製水交換サイン)が出た際は、精製水の交換をお願いいたします。

※低水位ランプが点灯したときなどや通常のご使用時に、精製水を継ぎ足すとTDSランプの点灯のタイミングが早くなりますので、精製水の継ぎ足しはせず、排水口から全て排水し、新しい精製水と交換することをお勧めします。

5. カニューラや本体の水素口から水があふれてきます。

酸素口キャップを外さず使用しているか、精製水の量がMAX以上になっている可能性があります。精製水の量と酸素口キャップを外しているか確認してください。精製水の量がMAX以上の場合は、排水口から排水し、酸素口キャップは必ず外した状態でご使用ください。水素ガス吸入の場合も水素水の生成の場合も同様です。

また、水素ガスと一緒に水タンク内の精製水が水素口から出てくることがあります。特に、本体内部チューブ内に空気詰まりが起こっている場合は、多く水が出る場合があります。その際は、本体底面にある排水口から5秒程度排水していただくと空気詰まりは解消します。

6. 気液分離コネクタに水が溜まってしまいます。

気液分離コネクタは、結露や水素ガスと一緒に出てくる水を受ける水受けです。

結露はご使用の環境(温度、湿度)に依存します。気液分離コネクタに水が溜まると、その水がカニューラを伝って鼻に入る可能性がありますので溜まったタイミングで、コネクタの上部ふたを時計回りに回して上へ引き、外してから中の水を捨ててください。カニューラ内に水が入ってしまった場合は、カニューラを振るか吊るすかなどして中の水を捨ててください。

※気液分離コネクタにはパッキン(ゴムの輪)がついています。パッキンがついていないと密封性が保たれなくなり、正常に水素ガスを吸入できない可能性があります。外れてしまった場合は、必ず取り付け直してください。

※パッキンの色は、半透明、黒など生産ロットにより異なりますが、品質、機能に違いはありません。

※P.9「気液分離コネクタについて」も併せてご確認ください。

7. パルスモードが使用できません。

気液分離コネクタがきちんと閉まっていない(もしくは破損している)。または、中のパッキン(ゴムの輪)が外れている。もしくは、本体内部の空気詰まりの可能性があります。気液分離コネクタがきちんと閉まっていない場合(破損も含む)や中のパッキンが外れている場合、コネクタ内の密封性が保たれず、使用者の呼吸の圧力が本体に伝わりづらくなり正常に反応しません。

また、本体から出る水素ガスもカニューラの先まで伝わりづらくなります。

気液分離コネクタがきちんと閉まっていない場合:

コネクタのふたを閉め直してください。

気液分離コネクタのパッキンが外れていた場合:

パッキンを取り付け直してください。

気液分離コネクタが破損していた場合:

新しいものと交換してください。(当社オンラインショップにてご購入いただけます。)

※気液分離コネクタが上記の状態の場合、応急措置としてコネクタをしっかりと閉めた状態でラップ等で巻いた後、テープで固定すると正常にご使用いただけます。

本体内部の空気詰まりの場合:

本体底面にある排水口から5秒程度排水してください。

8. パルスモードと呼吸のタイミングが合わないときがあります。

パルスモードは使用している方の呼吸のリズムを感知し、随時そのリズムに合わせて水素ガスの放出を行うため、「会話」「飲食」「移動」「口呼吸」などでその精度が落ちることがありますが、リラックスした状態で落ち着いて、鼻から息を吸い口から吐き出すような自然な呼吸をしていただくと効果的に水素ガスを吸入していただけます。音やランプなど初めは少し気になってしまうかもしれませんが、あまり水素ガスの放出のタイミングに集中しすぎると呼吸が乱れたり、息苦しく感じてしまう場合がありますので、ぜひリラックスしてゆっくりお使いいただければと思います。

※パルスシステムの精度は、開発ラボ内での計測では86.2%となっており、実際の吸入では吸入する方の呼吸の癖や吸入する環境に依存するため、開発ラボ内での計測の数字より若干精度が落ちる可能性があります。

9. パルスモード使用時に音がします。正常ですか？

パルスモード使用時は、本体内で水素ガスを「放出、溜める、放出」の繰り返し動作を行っており、切り替わる際に「カチッ」という弁の開閉音がし、溜まった水素ガスを放出する際は圧力で「ブスッ」という空気音がします。また、タンク内に溜めておける水素ガスの量には限度があり、呼吸をうまく感知できないなどの理由で、一定期間水素ガスが放出できずタンクに水素ガスが溜まりすぎた場合は、呼吸のリズムと関係なく水素ガスを放出し、その場合も同様の音がします。就寝中など、音が気になる場合は、ノーマルモードのご使用をお勧めします。

10. 電源コードの差し込みがゆるい気がします。

電源コードは、差し込みがきつめの仕様となっております。

奥までしっかり差し込めていない可能性がありますので、1度電源コードを本体から外し、コードを水平に持ち、グッと押し込むような形で奥まで差し込んでください。

もしくは、他の方法(ゆっくり差し込むなど)でも、電源コードの溝が見えなくなれば、しっかりと接続されています。

※P.9「電源コードの差し込みについて」も併せてご確認ください。

11. 使用中に止まってしまうことがあります。

本体の設定が、パルスモード・運転時間オートになっていませんか？

運転時間をオートに設定すると「自動オン/オフ機能」が動作し、一定時間(30秒~1分程度)呼吸を感知しない場合は自動で運転が止まり、再度呼吸を感知した際に自動で運転が再開します。

※P.18「自動オン/オフ機能」も併せてご確認ください。

12. 電源ボタンが反応しません。

電源コードがしっかり接続されていない。または、手指が乾燥してタッチパネルが反応しない。もしくは、操作パネルが汚れている可能性があります。

電源コードがしっかり接続されていない場合:

「10.電源コードの差し込みがゆるい気がします。」をご参照いただき、しっかりと電源コードを差し込んでください。

手指が乾燥している場合:

おしぼりなどで手指を湿らせて使用してください。

操作パネルが汚れている場合:

除菌シートなどで拭いたあと、乾拭きしてください。

※操作パネルは、タッチパネルとなっているため、ボタンを押す際は押し込むのではなく、指の腹で触れるようにしてください。

13. ボタンを押していないのに勝手に運転が始まります。

本体の設定が、パルスモード・運転時間オートの場合、「自動オン/オフ機能」が動作し、本体内の圧力センサーが、外部からの圧力(呼吸を含みますが、それに限らず。)を感知すると自動で運転を開始、停止します。

また、本体の初期設定は上記の「パルスモード・運転時間オート」となっているため外部からの圧力を感知した際は、電源コードを差し込んだだけで運転が開始します。一定時間(30秒~1分程度)再び圧力を感知しない場合は、自動で停止します。

「自動オン/オフ機能」を動作させたくない場合は、大変恐れ入りますが時間設定を1時間もしくは2時間にさせていただくか、ノーマルモードへ変更ください。

※P.18「自動オン/オフ機能」も併せてご確認ください。

14. 水タンクの水位が見えにくいです。

本体を蛍光灯の下や明るい場所に置き、水タンクキャップを外し水タンク内に光を入れていただくと水位観察窓より水位をご確認いただけます。もしくは、ライトで直接水タンク内に光をかざすと確認しやすくなります。また、排水口より排水していただいた状態の場合、おおよそ380ml~400mlで水位観察窓のMAXとなります。

15. 本体が異常に熱くなっています。

すぐに使用を中止して「お客様相談センター」へご連絡ください。

7 仕様

型番	: G-SMP120-001
サイズ	: 130mm×130mm×214mm
本体重量	: 1.6Kg
定格電圧	: 100V-240V・50/60Hz
消費電力	: 最大60W
水素ガス発生量	: 120cc/分±5%
水素ガス純度	: 99.995%
使用環境温湿度	: 5～40℃、≤80%RH
使用水質	: 精製水(日本薬局方)

※精製水(日本薬局方)はドラッグストアなどで購入いただけます。

無料修理規定

この度はGAURA製品をお求めいただきありがとうございます。
GAURA製品はお買い上げ日から1年間保証・修理を承っております。

■保証・修理対象 本体／電源コード

■保証・修理規定

- 取扱説明書に従った正常な使用状態で、保証期間内に故障した場合には、無料修理いたします。
 - 保証期間内に修理を依頼する場合は、以下の書類をご用意の上、お客様相談センターに修理をご依頼ください。
 - ①お買い上げ日の入ったレシートや納品書などの購入証明書類
 - ②購入日、販売店名、お客様情報が記入された保証書
※インターネットなど通信販売で購入された場合でも上記の書類が必要です。
 - 保証起算日は製品お買い上げ日からの起算となります。
 - 保証期間内でも、次の場合には有料修理となります。
 - ①購入証明書類と保証書の提示がない場合
 - ②保証書に購入日、販売店名、お客様情報の記入がない場合、または字句を書き換えられた場合
 - ③使用上の誤り、または不当な修理や改造による故障・損傷
 - ④お買い上げ後の輸送、落下などによる故障及び損傷
 - ⑤火災、公害、異常電圧及び地震・落雷・風水害その他天変地異など、外部に原因がある故障・損傷
 - ⑥車両、船舶などに搭載された場合の故障および損傷
 - ⑦業務用など一般家庭用以外での使用による故障及び損傷
 - ⑧消耗部品の交換
 - ⑨新品の転売や中古販売、オークション、フリーマーケット等の2次流通を経て購入された場合
 - 当社は、修理期間中の代替機の貸し出しは行わないものとします。なお、修理期間中の本製品の使用不能による補償等は、本規定で定める責任を除き当社では一切責任を負わないものとします。
 - 本製品の故障や仕様により生じた直接、間接的な損害につきましては、当社は一切その責任を負わないものとします。
 - 本保証書は、日本国内においてのみ有効です。また、海外でのご使用につきましては、当社はいかなる保証も致しません。This warranty is valid only in Japan.
- 保証書に記載された個人情報(お客様の保証書に記載されているとおり)は、保証期間内のサービス活動およびその後の安全検査活動に使用される場合があります。

■修理品の保管期間

当社がお客様から製品の修理依頼(修理見積り依頼を含みます)を受け、お客様の製品をお預かりした場合において、修理又は修理見積り完了後、合理的な通信手段を用いてご連絡させていただいたにもかかわらず、音信不通、返送先不明等の事由により、相当期間を経過してもなお製品をお引き取りいただけないときは、当社が製品をお預かりした日から6カ月間の保管期間の経過をもって、当社は、当社の裁量により、当該製品を任意に処分することができるものとします。この場合、当社はおお客様に対し、製品の修理代金又は技術手数料のほか、当該保管に要した費用並びに当該処分に要する費用(回収及びリサイクル料金等を含む)を請求できるものとします。

■保証・修理に関するお問い合わせ

お客様相談センター

Eメール:gos@gaura.co.jp

TEL:0120-453-006

お問い合わせの際は、次のことをお知らせください。

- 商品名:silmare Pulse 120 (シルマーレ パルス120)
- シリアル番号:製品の底面、本体箱に記載があります。
※ S/N:G _____ Jがシリアル番号です。
- お名前
- 電話番号
- お買い上げ日(年月日)
- 販売店名
- 故障の状態(具体的に)

Designed by GAURA in Japan Assembled in China



GAURA

株式会社ガウラ / 〒150-0011 東京都渋谷区東 2 丁目 26-16